



JAL FOUNDATION
公益財団法人JAL財団

事業計画書

2026年度

公益財団法人JAL財団



目 次

I. 【公益目的事業 1】	
未来に続く豊かさを地球規模で考え自ら行動できる人財を育成する事業	
1.JALスカラシッププログラム	2
2.世界こどもハイクコンテスト等俳句普及事業	2
3.地球人講座/インターンシップ等研修プログラム	3
II. 【公益目的事業 2】	
航空と環境の共存を目指すための調査・研究ならびにその成果を実現するための事業	
1.大気観測事業	3
III. 広報活動	3



I.【公益目的事業1】

未来に続く豊かさを地球規模で考え自ら行動できる人財を育成する事業

1. JALスカラシッププログラム

アジア・オセアニア地域の大学生・大学院生を日本へ招待し、日本人大学生との交流・研修・文化体験を通じて、日本への理解と国境を越えた相互理解を深め、将来を担う人材を育成することを目的として、昭和50年（1975年）に日本航空が開始。平成2年（1990年）より当財団が引継ぎ運営している。これまでに海外から参加した学生は1,732名を数え、政治・経済・法曹・ジャーナリズム等様々な分野で活躍している。

これまで全国の自治体との連携を検討・協議してきた結果、2026年度は、新たに和歌山県と提携することとなり、環境問題や地域社会の課題など持続可能な開発目標（SDGs）をテーマとした1週間のオンライン研修と2週間の訪日プログラムを計画している。2019年以来7年ぶりとなるホームステイを再開し、地域住民との生活体験を通じて、より深い相互理解と交流の機会を提供する。和歌山県より提示された地域課題については、実地研修や住民へのヒアリングに基づき、解決に向けたアクションプランを策定。最終日の発表会では、講師や関係者に加え、歴代の参加者も交えることで、世代や地域を跨いだ知見の共有と交流のサイクルを構築し、関係人口の創出につなげる。また、プログラム開始から50周年を超える歴史を踏まえ、各国・地域における卒業生ネットワークとの連携を促進し、次の半世紀につながる人的交流を拡大していく。

2. 世界こどもハイクコンテスト等俳句普及事業

世界の子どもの俳句創作の楽しさを広め、豊かな感性を育むとともに、世界で最も短い「詩」である俳句を生み出した日本文化への理解、参加者同士の国際交流を目的として「世界こどもハイクコンテスト」を隔年で開催し、世界の15歳以下の子どもから手書きの絵とハイクを募集している。

(1)「第19回世界こどもハイクコンテスト」

2025年6月から2026年2月までの間「音・おと」をテーマに「第19回世界こどもハイクコンテスト」作品募集を日本も含めた57の国と地域において展開した。

2026年8月までに各国・地域ごとに審査を行い、それぞれ大賞・入賞を選出し表彰するとともに、受賞作品はJAL財団WEBサイト内世界こどもハイクコンテストページにて公開する。なお、参加地域拡大による応募作品の増加に対応すべく、前回大会より専用業務システムを開発・運用し作品の審査や入賞作品のWEB公開等の効率化を推進している。また、2026年10月までに「特別表彰」を行い、各国・地域大会の大賞受賞者の中から、さらに金賞・銀賞・銅賞、審査員特別賞を顕彰することを企画している。

【参考】日本航空は1986年の「バンクーバー国際交通博覧会」と1988年の「ブリスベン国際レジャー博覧会」で、日本の子どもたちの俳句を紹介するとともに、カナダやオーストラリアの子どもたちからも俳句を募集し、大きな反響を得た。これが契機となり、1990年に設立された当財団が「大阪国際花と緑の博覧会」で、世界中の15歳以下を対象にした第1回「世界こどもハイクコンテスト」を開催し、26の国・地域から6万句の応募が集まった。それ以降、このコンテストは隔年で開催され累計の応募作品数は78万を越えている。日本語では五・七・五の俳句、海外では現地語による三行詩を募集し、それぞれ俳句にちなんだ情景を自分で描いた絵（俳画）を添える形式となっている。

(2)俳句普及活動

国内外でハイクコンテスト応募者拡大のため子ども向け俳句普及活動を実施予定。日本航空支店、俳句関連団体などと連携し、俳句ワークショップ等を開催予定。

(3)俳句関連行事への協賛

国内外で開催される子ども対象の俳句関連イベントへの協賛を通じハイクコンテスト認知拡大および応募者拡大を図る。



3. 地球人講座/インターンシップ研修等プログラム

地球規模で考え行動できる青少年の育成を目的として、次のプログラムを実施する。

(1)地球人講座

宇宙航空研究開発機構（JAXA）宇宙飛行士、JAXA職員など、第一線で活躍する講師による子ども向けの講演会「地球人講座」を開催する。2026年度も、海外在留邦人に向けたオンライン講演、国内での対面講演などの開催を予定している。

(2)インターンシップ

海外の大学で日本語や日本文化を学んでいる大学生を当財団に招聘し、就業体験を提供することにより、日本語能力の向上、日本・日本文化への理解を深めることを目的に1990年よりインターンシップ事業を実施している。2026年度もアジア・オセアニア地域から大学生の受け入れを計画しており、前年度より受け入れ体制を拡充し、前期と後期にそれぞれ1名ずつ、合計2名のインターンシップ生を受け入れ、年間を通じて継続的な人材育成を図る。前期参加者については、「2026 JALスカラシッププログラム」に事務局メンバーとして参加し、国際交流の促進および参加学生相互の交流を深める役割を担うことを期待している。また航空事業への知見を広げる場として、日本航空関係部署・グループ会社の協力による業務・施設見学や、グループ外企業での研修機会も提供する。なお、研修終了時には与えられたテーマについて日本語でまとめた研修成果レポートの作成および発表会を開催する。また、各研修についてのレポートは財団WEBページ上で公開し、広く一般に国際交流や各研修についての事例報告を行う。

(3)その他研修プログラム

「JALスカラシッププログラム」等で協力関係にある公益財団法人東日本鉄道文化財団が主催するアジア諸国鉄道会社の若手社員を対象とした研修に対して、日本航空安全啓発センター他の視察プログラムを提供し、航空事業における安全運航への取り組みを紹介する。

II. 【公益目的事業2】

航空と環境の共存を目指すための調査・研究ならびにその成果を実現するための事業

1. 大気観測事業

民間航空機に大気中の温室効果ガス濃度などを測定する装置を搭載し、その空間分布の観測を行うとともに、観測データを国内外の研究者に提供することで、地球温暖化をもたらす大気変動のメカニズム解明に資すること、またこれにより地球環境に対する関心を高めることを目的として、2026年度も継続して取り組む。2025年度に次世代機ボーイング787-9型機搭載用の観測機材開発と機体改修を完了し、2026年度は次世代機5機を含めた全6機による定常観測を実施する。これにより観測地点の拡大をはじめとした体制強化が図られる。

【参考】この事業は、観測装置の開発、温室効果ガスの測定・研究を国立環境研究所と気象庁気象研究所、観測装置を航空機へ搭載するための当局承認の取得・機体改修等を日本航空株式会社、観測装置の運用管理等を株式会社ジャムコ、観測体制の充実やデータの公開方法等について意見交換、検討を行う「航空機による地球環境観測推進委員会(前記4者と国土交通省、環境省、地球環境に関する大学研究者等で構成)」の事務局を当財団が努め、官民共同で推進している。

III. 広報活動

当財団の事業・活動内容を広く紹介し、さらなる理解、協力を得るために、以下の取り組みを推進する。

- (1)財団WEBページの充実（更新頻度の向上、ユーザーインターフェースの見直し等）
- (2)「プロジェクトレポート（年度活動報告書）」のデジタルによる発行
- (3)「世界こどもハイクコンテスト」の認知度向上
 - ・各国・地域の大賞受賞者の中から金・銀・銅賞を表彰する「特別表彰」によるPR活動
 - ・俳句業務システム活用による過去作品紹介コンテンツの充実
 - ・俳句関連行事、施設への協賛や提携団体の開拓
- (4)SNS利用等、デジタル化の推進



- ・2025年3月より開設したInstagramアカウントで月に7～8回程度の投稿（動画含む）を実施し、俳句やスカシップをはじめとしたJAL財団の事業を広く国内外に発信
 - ・日本航空のSNS発信と連動した投稿による閲覧数増加促進
- (5)大気観測広報の促進
本年度はボーイング787-9型機材での定常大気観測初年度となるため、日本航空と連携しメディア露出・SNS発信等、本事業の広報活動を積極的に実施

以 上